

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
飯沼由嗣	医療行為/治療関連感染症としての感染症	光山正雄	高齢者感染症:超高齢化社会の課題と特徴	医薬ジャーナル社	大阪市	2016	139-147
野田洋子、飯沼由嗣	認知症患者の感染症とそのケア	光山正雄	高齢者感染症:超高齢化社会の課題と特徴	医薬ジャーナル社	大阪市	2016	196-205

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
八木哲也	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌について	Hos Com	13(2)	1-7	2016
八木哲也	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌に対する感染対策	化学療法の領域	32	2047-56	2016
桑原正雄, 大毛宏喜, 他	健康危機管理対策専門委員会調査研究報告書	広島医学	69(12)	886-898	2016
梶原俊毅, 繁本憲文, 大毛宏喜	尿路感染症におけるChoosing Wisely	レジデントノート	18(13)	2407-2414	2016
Shimada N, Kayama S, Shigemoto N, Hiraizumi J, Kuwabara R, Nishio H, Yamazaki K, Wada Y, Sueda T, Ohge H, Sugai M	Complete nucleotide sequence of pK01-34, an IncL/M plasmid carrying blaIMP-34 in <i>Klebsiella oxytoca</i> isolate from Japan.	Antimicrobial Agents Chemother	60(5)	3156-3162	2016
具 芳明	日常診療における抗菌薬適正使用	内科	118(5)	2407-2414	2016
具 芳明	抗菌薬使用量、削減できる?	INFECTION CONTROL	25(12)	903-907	2016
具 芳明	なぜ抗菌薬を大事に使う必要があるの?	レジデントノート	18(13)	2373-2381	2016
Muraki Y, Yagi T, Tsuji Y, Nishimura N, Tanabe M, Niwa T, Watanabe T, Fujimoto S, Takayama K, Murakami N, Okuda M.	Japanese antimicrobial consumption surveillance: first report on oral and parenteral antimicrobial consumption in Japan (2009-2013).	J Glob Anti-infect Microb Res	7	19-23	2016

Usuda D, Sangen R, Hashimoto Y, Muranaka E, Iinuma Y, Kanda T.	Validation of a B-type natriuretic peptide as a prognostic marker in pneumonia patients: a prospective study.	BMJ Open	6(2)	e010440	2016
多賀允俊, 薄田大輔, 野田洋子, 飯沼由嗣, 西田祥啓, 山本康彦, 丹羽 修.	比色法を用いた次亜塩素酸ナトリウム浸漬液塩素濃度測定の有用性と濃度変化に影響する因子	環境感染誌	31(5)	314-317	2016
野田洋子, 飯沼由嗣, 薄田大輔, 多賀允俊, 新町美雪, 前多一美, 前野聡子.	尿取り扱い時の衛生管理の見直しをきっかけとした蓄尿指示の適正化	環境感染誌	32(1)	23-28	2017

学会発表

発表者氏名	発表タイトル名	学会名	開催場所	開催年月
八木哲也	カルバペネム体制腸内細菌の危機管理	第86回日本感染症学会西日本地方会 学術集会他2合同	沖縄	2016年11月
八木哲也	Trend of antimicrobial resistance in Japan	第28回臨床微生物学会総会	長崎	2017年1月
八木哲也	医療機関での多剤耐性菌対策再考—名大病院での取り組みも含めて—	第28回臨床微生物学会総会	長崎	2017年1月
長岡里枝, 小野寺一木場由美子, 原稔典, 城市由美子, 古霜麻紀, 梶原俊毅, 繁本憲文, 鹿山鎮男, 横崎典哉, 菅井基行, 大毛宏喜	カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌における検出法の比較検討	第29回日本外科感染症学会総会・学術集会	東京	2016年11月
大毛宏喜, 梶原俊毅, 嶋田徳光, 繁本憲文, 原稔典, 小野寺一, 木場由美子, 長岡里枝, 奥村由美子, 古霜麻紀, 横崎典哉, 鹿山鎮男, 菅井基行	薬剤耐性グラム陰性菌感染症診療の現状と課題	第86回日本感染症学会西日本地方会 学術集会他2合同	沖縄	2016年11月
Yoshiaki Gu on behalf of the Japanese study group of Global-PPS, Ann Versporten, Herman Goossens, Mitsuo Kakumaru.	The Global Point Prevalence Survey of Antimicrobial Consumption and Resistance (Global-PPS): Results on Antimicrobial Prescriptions in Japanese Hospitals.	26th European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases	Amsterdam, Netherlands	2016年4月

村木優一, 田辺正樹, 山崎大輔, 中村明子, 新居晶恵, 松島由実	JACS (Japan Antimicrobial Consumption System) を利用した抗菌薬使用量サーベイランスMACS (Mie Antimicrobial Consumption Surveillance) の構築	第32回日本環境感染学会総会	神戸	2017年2月
村木優一, 八木哲也, 山崎大輔, 田辺正樹, 藤本修平, 村上啓雄	我が国における抗真菌薬の使用動向 (2005~2013年)	第32回日本環境感染学会総会	神戸	2017年2月
村木優一	キャンディン系抗真菌薬 (ミカファンギン・カスポファンギン) におけるブレイクポイントについて再考する	第64回 日本化学療法学会総会	神戸	2016年6月
村木優一	耐性菌対策に立ち向かう薬剤師に必要な知識とツールを考える! -Japan Antimicrobial Consumption Surveillance (JACS) をどう活かすか? - JACSを取り巻く現状と今後	第26回 日本医療薬学会年会	京都	2016年9月
村木優一	抗真菌薬の適正使用に薬剤師は具体的にどう関わるべきか	第26回 日本医療薬学会年会	京都	2016年9月
村木優一	抗真菌薬を用いた治療において薬剤師として介入すべきこと	第26回 日本医療薬学会年会	東京	2016年10月
村木優一	自施設において抗菌薬使用量をどう調査し、AMR対策に活かすのか	東海ブロック学術大会	岐阜	2016年10月
村木優一	我が国における抗微生物薬使用に関する調査と監視	第32回日本環境感染学会総会・学術集会	神戸	2017年2月
藤本修平	感染対策の地域連携支援システム (RICSS) 構想とその実現	第75回日本公衆衛生学会総会	大阪	2016年10月
藤本修平	JANIS検査部門データの活用現状と今後: 2DCM-webとRICSSでAMRと戦う	第29回日本外科感染症学会総会・学術集会	東京	2016年11月
藤本修平	感染対策の地域連携支援システム (RICSS) について	第28回臨床微生物学会総会	長崎	2017年1月
藤本修平	感染対策の地域連携支援システム (RICSS) の開発	第32回日本環境感染学会総会	神戸	2017年2月
藤本修平	耐性菌と戦うサーベイランスシステム: 日本の耐性菌対策を支えるJANIS, JACS,	第90回日本細菌学会総会	仙台	2017年3月
薄田大輔, 多賀允俊, 山本康彦, 飯沼由嗣	当院における市中発症ESBL産生腸内細菌科細菌感染症の解析	第90回日本感染症学会総会・学術講演会	仙台	2016年4月